

A60a ボランティア団体と大学天文台の連携 ～黄華堂と大阪教育大の場合～

有本 淳一（京都市立塔南高校、黄華堂）、内藤 忍、林 智恵、成田 直、渡辺 洋一、蜂屋 正雄、北畠 悦子、溝口 小扶里（黄華堂）、勘田 裕一、濱岡 慎也、久世 直毅、中岡 正奈、定金 晃三、松本 桂、福江 純、廣木 義久、木立 英行、大教大スカイクルー（大阪教育大）

2007年5月、大阪教育大学天王寺キャンパスにおいて、天文ボランティア「黄華堂」と大阪教育大学の主催による、地域の小学生を対象とした天文イベントを実施した。このイベントについて報告する。

大阪教育大学天王寺キャンパスには20cmの屈折クーデ式望遠鏡が設置されており、かねてから教材開発などの教育用として利用されてきた。また、天文ボランティア「黄華堂」は、京都・大阪を中心に地域の小学校やPTAなどの依頼にもとづいた天文教室や観望会を実施してきた。今回は大阪教育大から主に望遠鏡や会場ホールといった施設面の提供を、「黄華堂」からは主に運営スタッフといったマンパワーを提供し、両者で連携して、天文教室と観望会を実施した。本発表ではこの連携について、特に実施してみて感じた細かな課題を中心に報告を行う。

また、学校における課外活動の自由度が年々減少していく中で、特に夜間におこなう天体観望会は、多様な実施母体・実施形態で運営されている。そのなかで、外部の団体を活用することが増えてきており、特に大学・科学館のような公的機関であったり、費用のかからないボランティアに依頼することが多い。このような状況の中で、今後のボランティア団体と大学との連携について、その可能性や問題点についても議論したい。